



わが東中

校訓…共に羽ばたく

能代市立能代東中学校
校報第17号
令和4年12月23日
文責：平澤秀樹

第34代生徒会長に大越理玖さん

12月15日(木)に生徒会長選挙、立会演説会及び投票が行われました。

生徒会長選挙には、鎌田和奏さん、佐藤健心さん、大越理玖さんの3名が立候補し、投票の結果、第34代生徒会長に大越理玖さんが当選しました。

鎌田和奏さんは、「自主性を尊重し、互いに高め合う東中」をスローガンに、「アンケート、目安箱の継続」「あいさつ運動の強化」「地域クリーンアップの強化」を訴えました。



自主性と組織の向上を訴えた鎌田候補

佐藤健心さんは、「縦と横のつながりを強め、団結し合える東中」をスローガンに、「縦割り班活動の継続・充実」「東中行事についてアンケートの実施」「地域貢献活動の充実」を訴えました。

大越理玖さんは、「明るく活気ある東中」をスローガンに、「全校生徒一人一人が盛り上げる行事の企画・運営」「全校からの意見の募集」「委員会」ことの広報活動」を訴えました。



学年間のつながりを訴えた佐藤候補

一人一人の意見を大切に！と訴えた大越候補



12月22日(木)には、生徒会新役員が任命式が行われ、生徒会長に大越理玖さん、副会長に鎌田和奏さん、事務局長に佐藤健心さんがそれぞれ任命されました。冬休み明けに、各専門委員長を任命し、新生徒会が始動します。

選挙は、能代市選挙管理委員会から本物の記載台と投票箱をお借りして、行うことができました。



防災小説・総合学習発表会

12月13日(火)に、今年の2年生で取り組んだ「防災小説」の発表会と、3年生の「総合的な学習の時間」の発表が行われました。11月29日に、五小6年生と一緒に行うことになっていましたが、コロナの影響で、開催日を変え、規模も縮小して行いました。

「防災小説」は、豪雨による土砂災害が発生し、避難することになったという設定で書かれ、5人の作品が発表されました。後日、製本して地域の皆さんにも見ていただきたいと思えます。

3年生の「総合的な学習の時間」の発表は、まず、修学旅行での東日本大震災遺構や狛鼻溪、中尊寺などの見学地の紹介と感想発表がありました。次に、職場体験で訪れた事業所の紹介と感想が述べられました。こうした体験を通して、大人になったとき「どう生きていくか」を考えるきっかけにしてほしいです。

最後に3年生からの提言が述べられ、発表会を締めくくりました。

提言の中で述べられた「能代の紹介パンフレットを作り、修学旅行などで配る」というアイデアは、ぜひやってみてほしい活動です。

【1月の行事】

- 1日(日) 元日 学校閉庁日
- 2日(月) 学校閉庁日
- 3日(火) 学校閉庁日
- 4日(水) 仕事始め
- 5日(木) 3年生冬休み学習会(～6日)
- 9日(月) 成人の日
- 12日(木) 東中ブロック小中連携協議会
- 14日(土) 県北総合硬式卓球選手権大会(タクミアリーナ)
- 15日(日) 檜山こども冬まつり
- 16日(月) 冬休み明け集会 3年生実テⅦ
教育相談週間(～20日)
- 17日(火) 郡市一斉数学テスト
放課後学習会 部活休養日
- 18日(水) 生徒会役員任命式・引継式
3年生三者面談～23日
- 19日(木) 集金日 専門委員会
- 20日(金) 集金日 避難訓練(火災)
英語検定(一次)
- 21日(土) 能代市総合体育大会卓球大会(市総合体育館)
- 23日(月) 学校評価部門別会議～2/4
- 25日(水) 定例職員会議 部活休養日
- 30日(月) 新入生学校説明会



自分の進路を考えよう！

国立教育政策研究所の調査(2020)では、中学校3年生の4割近くの生徒が、将来就きたい職業や仕事が決まっていないと回答しています。

「子どもにとって、大人というのは遠い存在に見えるものです。『この人たちは悩むこともあまりなく、大人は自分とは違うものだ』なんて思ってしまうがちです。しかし、実際に自分が大人になってみると、大人ってそんなにすごくありません。…『働く』を切り口にこれから待ち構える人生のいろいろなことを予習してください。…」(『なぜ僕は働くのか』:池上彰/学研 あとがきより)

中学校卒業後の進路がなかなか決まらないのは、さほど珍しいことではありません。まずは、さまざまな選択肢を知ることが、自ら進む道の発見につながります。情報収集したり、いろいろな人に相談しながら、将来の夢を見つけてほしいものです。(もちろん、進路の授業、総合の職場体験なども参考にしてください)

本校の図書室にも、進路に関わる本が充実しています。ぜひ、利用してください。

中学校卒業後は、高校進学の外にさまざまな選択肢があります。また、高校といっても学習スタイルによって種類は様々です。冬休み、自分の将来をじっくり考える機会をもてるといいですね。



智慧に裏打ちされた慈愛

これは、盛永宗興という臨済宗の僧侶で花園大学の学長を務めた方の「禅・空っぽのまま生きる」に載っている話です。

ある会社の社長がいて、この人がロータリークラブの会長に就任した。その時、みんなに「赤飯」を配って、次のようなお話しをしたという。

私は山梨県の貧しい農家の跡取りに生まれた。どんなにがんばっても狭い田畑で年老いてゆく両親や兄弟を養うことができなれないと思い、都会に出て出稼ぎをしなければならぬと思った。そこで、ある晩、家出の準備をし、母親が起きる二時間ぐらい前に家を出ようと思った。

ところが、母親がすでに起きていて、「赤飯を炊いたから食べていけ」と言う。できたての味噌汁も添えてある。「起きたばかりで食べられないなら、握り飯にしてやるから持っていけ」と言つて赤飯の握り飯を渡してくれた。それを持って家を飛び出したけれど、息子を引き止めもせず、泣きも騒ぎもせず送り出した母は、心の中で泣いていただろう。

握り飯は残ってはいないが、母の赤飯の握り飯を、自分のお守りとも仏とも神とも思って、脇道にそれずに今日まで来られた。私が今日あるのは、赤飯のおかげなので、今日、皆さんに食べてもらいたい。

盛永老師は、この話に打たれたのは、単に母親の慈愛だけでなく、この母の慈愛には、素晴らしい智慧の裏付けがあるからだ、としています。

「この母は、たぶん明治生まれで、当時は小学校四年で終わりなので、学校で学んだ知識は知れたものですが、いつも自分の子を正確に見取ることができていて、『他に何もしてやれない。息子はいいい加減な考えで家出しようとするのではない。相談されれば賛成はできないけれど、せめて前途を祝福するために赤飯を炊いて送り出したい』と思い、この素晴らしい方法、手段が生まれ、息子を大成させるお守りになったと思うのです。そう感じたから、私はこの話に感激するのです。」

老師はまた、「赤飯は手間がかかる」ということに注目しています。

「前の日から小豆を水につけ、時間をかけて小豆を煮て、その煮汁に餅米をつけておき赤飯をふかしながらも、その餅米に小豆の煮汁をかけながら仕上げます。この母は、息子がこの日に家を出ることを正確に見極めていたのでしょう。」

現代の私たちは、手間暇を省くことに心を奪われてきましたが、手間暇を省くことが智慧ではないのです。むしろ、手間暇をかける智慧から、慈悲の心が生まれるのです。手間暇を惜しんでいる人に真の心は宿らないのです。」

家出する息子に、旅立ちを祝って手間暇をかけて赤飯を炊いてくれた母の心に感動し、智慧の尊さを感じます。

※智慧 …… 仏教用語では、物事をありのままに把握し、真理を見極める力のこと。

※傍線は筆者

「冬休み前集会」

12月23日(金)、「冬休み前集会」が行われました。集会では2年生の堀井惇世さんと3年生の伊藤昂さんが後期前半の反省と冬休みの抱負について述べました。

2年生の堀井惇世さんは、部活動と学習について述べました。「卓球部は秋の県新人戦でベスト8に進んだが、うれしかったと同時に、自分たちに足りないものを知ることができたので、冬休みは体力づくりにも努めたい」と抱負を語りました。また、学習面では、「読解力を付けるために、毎朝、新聞を読む習慣を付けたい」と抱負を話していました。

3年生の伊藤昂さんは、「職業体験では、それぞれの職場で独自の取組があり、それぞれ地域を支えるための努力をしていることを知った」と活動の成果を話しました。また、「冬休みは、生活のリズムを

整えて、健康面にも気を付けながら、受験に向けて、応用問題や記述の問題を克服できるよう努力したい」と抱負を話していました。

Ⅱ 活躍 Ⅱ

【ビブリオバトル2022
能代大会】

ブックリーダー賞

3年 館山虎太郎さん

3年 大倉 史也さん

【読書感想文コンクール
能代山本地方審査】

能代山本地方審査

郡市入選 2年 鎌田 和奏さん

【北羽美術展・絵画部門】

佳作 1年 工藤 心優さん

2年 鎌田 和奏さん

【北羽美術展・習字部門】

半紙の部

銀賞 3年 小林 日理さん

3年 大倉 史也さん

佳作 2年 戸松 美羽さん

条幅の部

佳作 3年 大倉 史也さん

郡市年刊詩集

「たろっぺ」 71号

入選

「おばあちゃんコンビニ」

2年 鎌田 和奏さん

「測量機」

3年 柴田 恭輔さん

「水仙の香りは春を運ぶ」

3年 小林 日理さん

佳作

「初めての感情」

1年 安田 妃花さん

「能代市一のバッター」

2年 大越 理玖さん

「夢の果てで笑うため」

2年 堀井 惇世さん

「苦手なこと」

2年 山本 沙羅さん

「興味をもつことの大切さ」

3年 小林 颯太さん

入選作品は、「たろっぺ71号」

に掲載されます。

◆先人の言葉 ナポレオン

The evil you meet one day is a reward for some time that you neglected.

(お前がいつの日か出会う禍は、お前がおろそかにしたある時間の報いだ。)

The most important thing in the game of life is the break points.

(人生という試合で最も重要なのは、休憩時間の得点である。)

今という時間はもう戻ってくる事はありません。自分が無駄にした時間の愚かさに気付くのは後になってからです。偉人と呼ばれる人たちは、とにかく休憩時間や隙間時間の使い方が上手です。